

# オペラ『赤毛のアン』の実現に向けて

宮崎県オペラ協会相談役

初演オペラ『赤毛のアン』上演実行委員長

見山 靖代

## 目次

	はじめに
1	宮崎県オペラ協会のあゆみ
2	新たな挑戦
3	実現への第一歩
4	失敗と挫折
5	オペラ『赤毛のアン』オペラ化に吉報
6	契約書締結
7	契約文書について
8	世界初 オペラ『赤毛のアン』制作に向けて
9	上演成功のための組織づくり
10	アマチュア団体の財政事情
11	ケイトさんとイライザさんようこそ宮崎へ
12	第二十二回 世界初演オペラ『赤毛のアン』公演
13	オペラ『赤毛のアン』の社会的評価

## はじめに「モンゴメリとアン」のふるさと

### プリンス・エドワード島を訪ねて

#### 【旅の目的】

- ① 「赤毛のアン」の舞台をめぐる
- ② ケイト・マグドナルド・バトラーさんを表敬訪問する  
『赤毛のアン』の作者L・M・モンゴメリの孫娘。相続人会社代表)
- ③ ジョージ・キャンベルさんを表敬訪問する

(契約の恩人、銀の森屋敷のご主人、相続人会社のメンバー)

2016年6月1日から約1週間「松本侑子さんと行くカナダプリンス・エドワード島ツアー」に参加した。宮崎から私たち夫婦と義妹の小田夫婦4人が同行した。一行39名。松本さんはツアーの案内者であり「赤毛のアン」の翻訳者でもある。彼女の計らいで、全ての目的が叶い有意義な旅となった。松本さんと同行のみなさんに、心から感謝したい。

孤児アンが期待と不安を胸に、ブライト・リバー駅に降り立ったのも同じ6月。島は長い冬眠から醒めたばかりの春爛漫。草原の緑が目にした。満開のさくら。咲き乱れる白い林檎の花。100年前の小説さながらの風情に感動。光と新鮮な空気、植物の香りを身体一杯に浴びた。アンが世界一美しいと言ったプリンス・エドワード島はL・M・モンゴメリの生まれ故郷であり、小説の主人公アン・シャーリーの故郷。彼女の息づかいが感じられる。島民は「Anne of Green Gables」という文化遺産に誇りを持ち、穏やかに共存共栄していた。

「赤毛のアン」の舞台めぐり(松本さんの解説付き)

「キンドレット・スピリッツ・カントリーに三泊(グリーン・ゲイブルズまで徒歩3分)

\*グリーンゲイブルズ \*モンゴメリのお墓 \*郵便局

\*教会 \*モンゴメリ家跡 \*恋人たちの小径

\*お化けの森 \*ブライトリバー駅舎

\*キャンベンディシユビーチ \*モンゴメリ生家

\*銀の森屋敷(赤毛のアン博物館) \*輝く湖水

\*コンフェデレーション橋 \*墓地公園

美味しい地どれの食材(量の多さにびっくり)

\*ロブスター \*ムール貝 \*生牡蠣 \*ワイン

\*ジャム \*アイスクリームetc

#### 《表敬訪問》

\*ケイト・マグドナルド・バトラーさんとサリー弁護士

トロント空港へバスで45分、北西部のノーヴァルへ向かった。モンゴメリの夫ユーアンが牧会した教会。ケイトさんと弁護士のサリーさん(文書のやりとり相手)にお会いした。ケイトさんは祭壇上で歓迎のメッセージ。10名くらいの信者さん達がお友達だった。初めての表敬訪問は、心温まる一日だった。

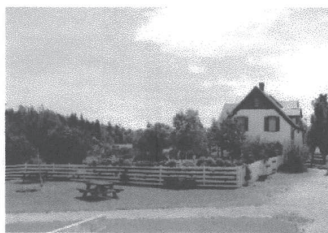
\*ジョージ・キャンベルさんと妹のパム・キャンベルさん

銀の森屋敷でお会いした。育ての親マッシュー、マリラ兄妹を彷彿とさせるお二人であった。私たちはモンゴメリが結婚式を挙げた客間に通され、そこにあった古い足踏みオルガンを、見山富士夫が弾き、日本の歌『故郷』をみんなで合唱した。パムさんは涙を流して喜ばれた。広い農場で、作業着姿のキャンベルさんが出迎えてくださった。まるでマッシューのような優しい笑顔。ほどなくパムさんも屋敷から出てこられしばし談笑。緊張もすっかりほぐれた。

#### 1 宮崎県オペラ協会のあゆみ

(1) 宮崎県オペラ協会の本公演

宮崎県オペラ協会は1972年創立。内外の古今名作のオペラやオリジナルオペラに精一杯取り組んだ。本公演22回開催。全国に400



グリーン・ゲーブルズ



ケイト代表・サリー弁護士と



ケイトさんの歓迎の言葉



満開のリンゴ園



ジョージ・キャンベルさんと



パム・キャンベルさんと



海岸公園で仲間たちと



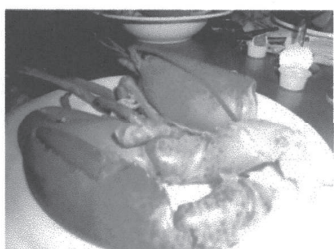
赤土の道



ブライトリバー駅舎



恋人たちの小径



ロブスター



デザート

画像：宮崎県オペラ協会提供

を超えるオペラ団体がある中で、宮崎県オペラ協会の評価は高い。

【本公演演目】

第1回 「魔笛」(1973年)

演出／吉富堅二郎

旗揚げ公演は、未熟ながらも大成功

第2回 「カルメン」(1975年)

演出／工藤智昭

オペラ演目中世界一番人気の作品。お客様も大喜び

第3回 「あまんじゃくとうりこひめ」 「バステイアンとバ

ステイエンヌ」(1976年)

演出／工藤智昭

オペラ創りのノウハウを学んだ

第4回 「鶴富二幕」(1979年)

演出／佐藤信

作曲／林光

日本を代表する二人 佐藤信／林光との衝撃的な出会い。森永国

男会長の功績大。最後の章の楽譜は1週間前に届く。

第5回 「河童譚」 「安寿と厨子王」(1982年)

小作品を県立博物館ホールで開催 初心にかえって勉強

第6回 「愛の妙薬」(1983年)

演出／橋 市郎

橋市郎演出は舞台にバルーンが飛び、舞台空間の可能性

に目覚めた。お客様に喜ばれた。

第8回 「カルメン」(1985年)

演出／松永 健

聞かせどころを得ているビゼーの音楽 物語がドラマティック

観客を飽きさせない

第9回 「ヘンゼルとグレーテル」(1987年)

演出／末平浩康

末平浩康演出は、ヘングレの公演の教科書として定着

大好評に付き急遽追加公演

第10回 「白いけもの伝説Ⅱ鶴富」(1988年)

題名の変更。NHK衛星放送で全国に放映された

第11回 「ヘンゼルとグレーテル」(1990年)

第12回 「ヘンゼルとグレーテル」(1991年)

演出／地村俊政

オペラ協会人気の演目として学校公演でのリクエスト多し

第13回 「魔笛」(1992年)

演出／見山靖代

出演者の子どもたちが大勢。パゲーノとパゲーノの子どもで出

演。第2世代の成長が楽しみ

第14回 「炎の姫Ⅱ此花開耶姫へのオマージュ」(1994年)

台本／古垣隆雄

作曲／金田雄志

演出／末平浩康・地村俊政

台本・作曲・演出すべて宮崎人によるオペラを完成

第15回 「遠い海の記憶Ⅱ海幸・山幸」(1997年)

台本／実宏健士

作曲／金田雄志

音楽は超現代曲。歌い手は音取りに苦労した。加納雄一

衣装デザインの獨創性に注目。今では着ぐるみでは世界的。宮崎

神話を県民に親しんでもらう音楽は?

第16回 「ヘンゼルとグレーテル」(1999年)

演出／見山靖代

清武文化会館で。照明の是永真一さん遺作となった。

第17回 「カヴァレリア・ルスティカーナ」(2002年)

演出／見山靖代

着任早々の県劇青木賢児館長(前NHK交響楽団理事長、宮崎国

際音楽祭創設者)から「宮崎のオペラのレベルは高いね」

第18回 「コシ・ファン・トゥツテ」(2003年)

演出／見山靖代

出演者・観客ともにオペラブツファの楽しさを味わった

テノール栗原敏文さん客演(土田浩さんの義兄弟)

第19回 「鬼八Ⅱ鬼棲む里の伝説」(2004年)

台本／高山文彦 作曲／池辺晋一郎 演出／中村真理  
高千穂出身大宅賞作家高山文彦の初めての台本は「自然と人間の調和」いつの時代にも不変の理。素晴らしい台本に感動。池辺先生の音楽は印象に残る。

第20回「カルメン」 演出／倉迫康史

娼婦と少女 情熱と孤独 二人のカルメン 二つの結末  
倉迫演出の視点がユニーク

第21回「鬼八ノ鬼棲む里の伝説」(2015年)

演出／宇井幸司

演出者が変わると舞台も変わる 池辺先生のご推薦

第22回 世界初演『赤毛のアン』(2018年)

翻訳／松本侑子 台本演出／倉迫康史 作曲／佐橋俊彦

初めて世界名作小説のオペラ化に取り組む。

\*子どもから大人まで楽しめるオペラ

\*メロディックで口ずさめるオペラ

\*親しまれるオペラ

ライセンス取得には時間はかかったが、契約に至るまでの人と人との絆の大切さを学んだ。オペラは時代を超え国境を越え・心の壁を越えて多くの人々の心を魅了。繰り返し演奏されることで成長してきた。大衆性と芸術性は相反するものではないと考える。

オペラ『赤毛のアン』の生命力を信じる

オペラ『赤毛のアン』は宮崎県オペラ協会の誇り

(2) 宮崎県オペラ協会の事業

\*宮崎県新人演奏会30回以上\*学校公演150校以上

\*宮崎市文化連盟主催「春の音楽祭」毎年出演

\*宮崎市文化連盟主催第九「合唱」のソリスト、合唱で参加

\*全日本オペラフェスティバルに出演して交流

\*全国オペラフォーラムに出席

\*他団体との共演(宮崎シティフィル等)

\*ニューイヤーパーラコンサート

\*ふるさとファミリー劇場

\*伊達バレエ団主催「ドラマティック古事記」に賛助出演

\*宮崎市民文化ホール開館記念「市民コンサート」出演 etc

オペラ協会は、オペラの楽しさを多くの人に知ってほしいと考えている。学校公演は子どもたちの喜ぶ姿が励みになる。宮崎県新人演奏会は、若い音楽家達の登竜門。さらに協会にとっては新人発掘のチャンス。ふるさとファミリー劇場では積極的に地方に出かけ地元の方々と交流した。子どもから大人までオペラに興味を持ってもらうために、演目選びには気を配っている。「オ・ペ・ラ?」「お・て・ら?」「歌うオペラです」…も今は昔噺。

宮崎の地に、徐々にオペラが浸透しつつあることを実感している。

(3) 受賞歴

\*大臣表彰地方文化功労賞

\*宮崎県芸術文化団体連盟 芸術文化賞

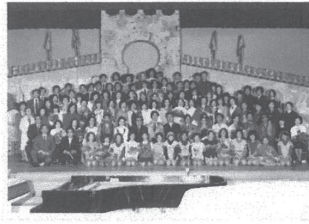
\*宮崎銀行ふるさと文化振興基金助成受賞

\*三菱UFJ信託銀行 佐川吉男音楽賞 奨励賞

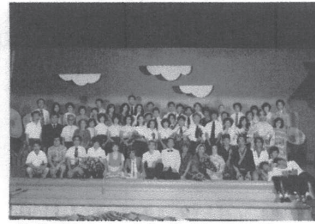
\*オペラ『赤毛のアン』で再び、宮崎日日新聞文化賞

評価されることは嬉しい。

オペラの舞台は建築と同じ。創り上げていく過程が面白い。



カルメン



あまんじゃくとうりこひめ



鶴富



ヘンゼルとグレーテル



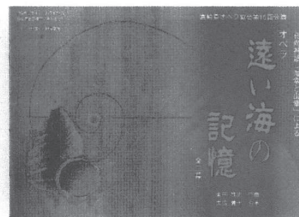
カヴァレディア・ルスティカーナ



魔笛



炎の姫



遠い海の記憶



コシ・ファン・トゥツテ



鬼八〜鬼棲む森の伝説



2人のカルメン、2つの結末。

カルメン



オペラ『赤毛のアン』

画像：宮崎県オペラ協会提供



画像：宮崎県オペラ協会提供



宮崎日日新聞社掲載 2011(平成23)年 9月2日付 11面



画像：宮崎県オペラ協会提供 宮崎日日新聞社掲載 2016(平成28)年 9月24日付 23面



宮崎日日新聞社掲載 2018(平成30)年 10月27日付 1面



## 2 新たな挑戦

(1) 宮崎県オペラ協会創立40周年事業

2008年4月の総会で「創立40周年記念事業」として、カナダの女流作家L・M・モンゴメリ原作「赤毛のアン」のオペラ化を決定。協会にとつては、5作目の新作オペラとなる。古代から現代へ、大河ドラマからホームドラマへ。新たな時代の幕開け、新しい挑戦の始まりである。

(2) 気鋭の芸術家く松本侑子さん 倉迫康史さん

佐橋俊彦さん

ア松本侑子さん（翻訳家、小説家）

① 日本初全文訳

② 学術的な訳注付きで物語の背景が理解しやすい

③ 児童書でなく、純文学的名作ととらえた

④ プリンス・エドワード島の生き字引

⑤ 美しい日本語で翻訳されている

イ倉迫康史さん（舞台演出家 たちかわ創造舎チーフディレクター）

① 宮澤賢治作「ポラーノの広場」の演出に感動

② 役者の身体表現能力を發揮させる抜群の指導力

③ 舞台のセンスの良さ

④ 多彩かつ豊富な舞台演出経験

⑤ 宮崎市出身

ウ佐橋俊彦さん（作編曲家）アニメ、ミュージカル、劇音楽、映画

① NHK朝ドラ「ちりとてちん」の音楽に感動

② ジャンルにとられない自在な表現力

③ 根底にクラシカルな音楽が流れる品の良さ

④ オペラの核は「ポップでお洒落で哀しい」に共感

⑤ ルーツは宮崎 都城出身音楽家岡崎実俊氏の子息

この三人の方々との出会いから、新しいオペラが誕生する。

## 3 実現の第一歩

(1) シンポジウムと試演会

く名作「赤毛のアン」の魅力とオペラ化への挑戦

日時 2011年8月25日（木）19:00～

場所 宮崎市民プラザ オルブライトホール

主催 宮崎県オペラ協会（宮崎市文化振興基金事業）

《第一部 お話し》

① はじめに 司会進行 末平浩康（協会理事長）

② 世界名作「赤毛のアン」のオペラ化 見山靖代（協会会長）

子育て・地域社会・学校教育の現場で問題点が網羅されている。

く大河ドラマからホームドラマへ

③ 「赤毛のアン」の台本化 倉橋康史（舞台演出家）

く名作小説からオペラ台本を生み出す困難さ

家族劇と群像劇の2重構造

④ オペラ『赤毛のアン』 佐橋俊彦（作編曲家）

く初めてのオペラ作曲に心躍る。

「オペラはこの世で最高の芸術形態」と信じている。

⑤ 出演者の立場から 泊かずよ（協会制作局長）

くカルメンからマリラへ 役者としての面白さ

⑥ クロストーク

倉迫・佐橋両氏は東京在住。意気投合して作業がはかどった。台

本家・作曲家のこのような関係は理想的。

⑦ 質疑応答

会場からは21世紀の期待が寄せられた。観客の好反応に出演者共々、明るい未来を確信する。

〈第2部 オペラ『赤毛のアン』演奏会形式による抜粋演奏〉

指揮／土田浩 ピアノ／土田悦子 本田麻奈美

案内役リンド夫人／森田祐子

〈第1幕〉

① マッシュューが馬車に乗ってる

村人たち／パステイアポプリ&協会

② 歓びの白い路

アン／河野敦子

③ その子は誰、男の子はどこに

マリラ／泊かずよ

アン／河野敦子

マッシュュー／西澤拓哉

④ わしらがあの子の役に

マリラ／泊かずよ

⑤ アン、リンド夫人だよ

マッシュュー／西澤拓哉

⑥ あなたがダイアナ？

リンド夫人／森田祐子

アン／河野敦子

マリラ／泊かずよ

⑦ わしらがあの子の役に

アン／宮田かおり

⑧ 皆さんおはよう

ダイアナ／友納真美

⑨ 悔やんでも悔やみきれない

マッシュュー／末平浩康

⑩ 私たちはだんだん大人に

マリラ／泊かずよ

〈第2幕〉

⑪ わしは年を取っただけ

ファイリップス先生／西澤拓哉

⑫ やがて夜の静寂が

アン／黒木あすか

⑬ 村人たちがパステイアポプリ&協会合唱

ダイアナ／宮田かおり

⑭ そんなに泣くのはおよし

マリラ／泊かずよ

⑮ その必要はないよ

アン／河野敦子

⑯ 風は桜の木を揺らし

村人たち／パステイアポプリ&協会合唱

⑰ 物語を大事にしなから、舞台構成も要所をとらえてよどみない。

言葉が美しく流れる・音楽が爽やかで、躍動するテンポ感に体が素直に反応する。観客も楽しめる。

⑱ (2) 講演「赤毛のアン」によせて

〜オペラ『赤毛のアン』によせて

⑲ 日時 2011年8月27日(土) 14時〜16時

会場 宮崎市中央公民館 大研修室

⑳ 主催 宮崎県オペラ協会 宮崎市文化振興基金事業

講師 松本侑子さん(作家・翻訳家／日本ペンクラブ常任理事)

㉑ 会場には約50人ほどの「赤毛のアン」ファン。女性が断然多い。

松本さんは多彩な顔を持っておられるが、まるで彼女の一人芝居の役者を見ているよう。その場面が想像され惹き込まれる。

㉒ 講演内容

「赤毛のアン」の舞台は19世紀末のカナダ東海岸にあるプリンス・エドワード島。そこで農業を営んでいるマッシュューとマリラの兄妹が孤児院から引き取ることになったのが主人公のアン・シャーリー。彼女を取り巻く少年少女の成長と周囲の大人の成熟を描いた愛の物語。この物語は児童書ではなく、L・M・モンゴメリの英米文学の知識や聖書(約100カ所引用)の影響が強く、知的で哲学的な文学作品。登場人物の名前とキリスト教との関係も、意味があり興味深い。さらに、シェイクスピア劇「ロメオとジュリエット」からの引用も多い。夢想的なアンの何気ないおしゃべりにも、

随所にシェイクスピア劇の一節が盛り込まれている。

《薔薇はたとえばどんな名前でも呼ばれても甘く香るであろう》

《過去は忘却のマントで覆い隠そう》等々

それにしても、松本さんの知的好奇心は凄い!!

美しいプリンス・エドワーズ島の写真も、興味をそそられる。彼女の案内でぜひ訪れてみたい。(夢はかなった)

(2016年6月1日〜7日ツアーに参加して実現)

#### 4 失敗と挫折

(1) the Anne of Gables Licensing Authority Inc. 以下 (AGGLAと略) の存在

翻訳者松本侑子さんから、小説「赤毛のアン」をオペラ化するには、カナダのAGGLA(ライセンス局)に許認可申請をする必要があるとのこと、迂闊であった。このまま企画を続行していれば、裁判沙汰にもなりかねないところ。松本さんに救われた。

(2) AGGLAへオペラ「赤毛のアン」の舞台制作上演権の申請

第1回目 2010年5月17日 申請

(宮崎県オペラ協会の紹介と企画書、申請書)

2010年11月25日 却下

第2回目 2010年11月30日 申請

(契約金2000ドルの用意がある)

2010年11月30日 却下

第3回目 2010年12月13日 申請

(オペラ化への強い意志の表明)

2010年12月22日 却下

#### 【却下の理由】

①カナダでのミュージカル「赤毛のアン」の作者ドナルド・ハーロ

ン、ノーマン・キャンベルと独占契約をしている。

②相続人の大半が賛同していない

③2012年にミュージカル「赤毛のアン」を日本で上演するので、混同の恐れがある(劇団四季公演)

宮崎県オペラ協会の申請は、3回とも却下された

(3) 倉迫康史さん 佐橋俊彦さんオーディション審査のため来宮。舞台制作上演権未取得について話す。

予定通り2010年12月26日、審査員として両氏来宮。2012年9月1日/2日公演のオーディションを行った。オーディションは地元協会は勿論、東京やドイツに留学している人も応募して盛会であった。終了後、ライセンスが取得できていないことを、率直にお話した。佐橋さんのお顔がプロとしての厳しい表情に変わった。直ちに以下のことを申し渡されお帰りになった。

①ライセンスがない作品の発表は、作曲家としてのプライドが許さない。今後の創作活動に著しく支障をきたす。

②オペラ『赤毛のアン』の楽譜使用禁止

③公演差し止め

④今後のことは、顧問弁護士長谷川拓也氏に託す。

倉迫・佐橋両氏のオペラ『赤毛のアン』は、必ず舞台制作上演権を獲得して一点の曇りもない状態で発表することを心に誓った。

(4) オペラ協会『赤毛のアン』公演延期新聞紙上で発表

2012年3月19日付け 宮日新聞紙上で

宮崎県オペラ協会主催 2012年9月1日/2公演予定のオペラ『赤毛のアン』は、諸般の事情により、2013年以降に延期

することになりました。公演が近づきましたら、改めてお知らせいたします。

倉迫・佐橋両氏の無念は宮崎県オペラ協会の無念。

オペラ『赤毛のアン』の舞台制作実現の夢は続く。

(5) 契約社会で生きる

「契約とは、目的や条件を決めて約束すること。一定の事項につき2人以上の当事者の合意によって成立する法律行為」と辞書には記されている。AGGLAと宮崎県オペラ協会との合意を形成するためには、如何にすべきか？模索は続くAGGLAとの関係の糸口を求めて、趣旨書・企画書を持って、下記の所にアタックした。

\*文科省著作権課（そのような案件は扱っていない）

\*カナダ大使館（反応なし）

\*カナダ大使館関係者（進展見られず）

経産省OB、宮崎県出身の経産省現職官僚

日本著作権協会（それは不可能ですと言下断られた）

\*劇団エンジェル（2012年7月27日全労済ホール）公演。劇団の「赤毛のアン」を観劇後、代表／演出家高倉亜希子氏にライセンス取得の経緯を伺う。日本の舞台関係でライセンスを持っているのは、この劇団と劇団四季のみ。

\*ソプラノ歌手中丸三千絵さんにも宮崎で公演時にお願ひした。

\*長谷川卓也弁護士

法的解釈・作曲家の尊厳等ご助言いただいた。やはり契約は私たちの問題。

ライセンス獲得はなかなか手強い。

## 5 オペラ『赤毛のアン』オペラ化に吉報

↳奇跡の舞台制作上演権獲得

(1) 2014年10月19日プリンス・エドワード島から帰国したばかりの松本侑子さんから電話が入った。

AGGLAの相続人メンバーの一人で、「赤毛のアン博物館」（銀の森屋敷）のオーナーでもあるジョージ・キャンベルさんから、「宮

崎県オペラ協会から何度も申請書が提出されていたが、その後、協会と彼女はどうしているかね？」とのこと。

「AGGLAは、2014年10月25日からクリスマス休暇になるので、その前に大至急もう一度申請書を提出されてはどうですか…」と松本侑子さんからの電話だった。

(2) 「まるで天の声 ありがとうございます!!」

「これはチャンス!!申請書を提出しなければ」宮崎国際大学のロイド・ウォーカーさんに事情をお話しし、AGGLAへ大至急メールしてくださるようお願いした。

10月23日 彼の翻訳で4度目の申請書を送信完了

(3) 2014年12月19日、AGGLAから舞台制作上演許可

「宮崎県オペラ協会に限って、オペラ化を許可する」

松本侑子さんは、通訳者としてプリンス・エドワード島を訪れる度に、AGGLAを説得。彼女のプリンス・エドワード島への永年に亘る貢献度と広い人脈。キャンベルさんの相続人とメンバーとしての善意と勇気。我々の3回申請書提出。諸々の情熱・熱意が、AGGLAのメンバーの心の扉を開かせた。

カナダと日本の国境を越えて奇跡が起こった。

「赤毛のアン」オペラ化実現への道筋が整った。

## 6 契約書締結 2015年4月17日

AGGLA マグドナルド・ケイト・バトラー代表と

宮崎県オペラ協会会長 見山靖代は契約書にサイン

宮崎県オペラ協会制作 世界初演オペラ『赤毛のアン』はライセンス（特許権）を持つオペラ作品であると証明された。

2015年4月17日調印まで丸5年の歳月を要した。

「継続は前進なり」を実感した。

## 7 契約文書について

契約文書は15項目から成り立っている。念のため3人の方々に翻訳依頼。3人とも、「宮崎県オペラ協会の実情を踏まえた、非常に好意的な内容である」と言われた。念のため、宮崎の弁護士さんにも見て頂いたが、「通常の契約書より、縛りの少ない緩やかなもの」であると。しかも契約金550ドルには驚いた。善意を持って我々に対処して下さったことがうかがえる。感謝である。これで長いこと御迷惑をおかけしていた、倉迫・佐橋両先生にもご報告できる。

L・M・モンゴメリの相続人は宮崎県オペラ協会が、2015年3月から2020年3月までの5年間、「赤毛のアン」の文学作品を日本語のオペラ作品として制作し、様々な場面で演奏することを許可します。

相続会社代表 ケイト・マグドナルド・バトラー

## 8 世界初 オペラ『赤毛のアン』制作に向けて

(1) オペラ『赤毛のアン』発会式

2016年9月22日(秋分の日) 宮崎市民プラザ大研修室

オペラ協会員、パステイアポプリ、関係者約50名参加

①開会のことば 司会 泊かずよ

②オープニングコーラス「マシユーが馬車に乗ってる」

オペラ協会&パステイアポプリ

③会長挨拶 地村俊政 ④名誉会長 見山靖代

⑤台本演出 倉迫康史 ⑥作曲 佐橋俊彦

⑦質疑応答 ⑧コーラス「風は桜の木を揺らし」

オペラ協会&パステイアポプリ

⑨記念撮影 閉会

(2) 初めての記者会見(宮崎県庁)

2016年9月23日

オペラ『赤毛のアン』公演をアピールする。

宮崎日日新聞 読売新聞 MRT UMK 西日本新聞取材

地村会長 倉迫演出 森田 泊 見山出席

\*宮崎県オペラ協会地村会長よりオペラ『赤毛のアン』上演の概要が発表された

\*倉迫康史さんから『赤毛のアン』はファンが多い作品で気合いが入っている。クラシカルな要素を基本に21世紀にふさわしい舞台にするため最新の技術も採用したい。

\*名誉会長の見山は「アンがたくましく生きる姿を、世代を超えた多くの人に見てもらいたい」と語る。

## 9 上演成功のための組織づくり

倉迫・佐橋提案を受けて

(1) 2本立て組織結成

その一 舞台創造のためのオペラ協会(地村会長が統括)

\*歌手60名で舞台づくりに専念する。

\*週2回の練習(水・土)

\*台本・楽譜の大幅な改訂の確認

\*公演までのスケジュール

①2016年11月27日 出演者のための説明会

②2017年2月11日・12日倉迫・佐橋によるワークショップ

③2017年5月28日オーディション

④2018年8月25日/26日 本番3公演

その二 興行推進のための上演実行委員会(見山委員長)

\*副委員長古垣隆雄(オペラ協会員) 毎月一回例会

委員25名はボランティアで上演成功に協力する外郭集団

行政 財務 語学 マスコミ関係のスペシャリスト揃い

\*財務関係(予算案の見直し 補助金申請 協賛 賛助 広告)

\*企画関係 (印刷 ケイト代表歓迎 表敬訪問)

\*運営関係 (劇場との折衝 アルバイト 駐車場 レセプニスト)

\*マスコミ (テレビ放送新聞社)

\*庶務関係 (起案文書作成発送 ホテル 交渉)

信頼関係を基に、自主自立自発・主体的に行動する

上演を成功させるために

クオリティの責任を負うオペラ協会と興行の成功を負う

上演実行委員会との役割分担は正解だった。

オペラ協会以外の方との交流、共同作業は新鮮だった。

## 10 アマチュア団体の財政事情

(1) 入場料収入だけでは賄えない

当初2600万円の予算原案を2135万円弱まで削った。

入場料の予算に占める割合は、約6割である。

SS席6000円、S席5000円、自由席4000円設定。不足分

は特別協賛社 協賛 広告 個人賛助会員等で賄う。財務委員会が

中心になって奔走した。

(2) 想定外の出費

台風シーズンに備え、保険契約(190,000円)

本番当日晴天「まさかのときの保険」であった。

(3) 給付されなかった芸術文化振興基金助成金

独立行政法人日本芸術文化振興会のアマチュア等の文化団体活動助

成金を得るため、県の文教文化課をとおし、「独立行政法人 日本

芸術文化振興会理事長」宛に申請書。綿密なチェック。数回にわた

る書き直しあり、

①文化振興基金助成金交付申請書

②活動の目的内容 予算書

③収支決算書

内定額は368,000円(これまでの10分の1の査定

決算書提出後、内定取り消しの文書(黒字決算のため)

申請取り下げ文書の提出(始末書)を求められる

地方文化活性化のうたい文句は何だ?

文書作成の膨大な時間の浪費。作成の要領を勉強する必要

ありと感じた。

赤字のない宮崎県オペラ協会を誇りに思う。

## 11 ケイト代表とイライザさんようこそ宮崎へ

(1) 宮崎駅での盛大な歓迎式典

2018年8月22日(水) 14:00~15:00 上演実行委員会が企画

し宮崎駅で盛大に歓迎式典を行った。ケイトさんとイライザさんは、

広島から電車で宮崎入り。異例のことなので、駅の企画室の方と綿

密な打ち合わせ。駅長さんはこの日のために赤絨毯を用意。会場設

営はオペラ『赤毛のアン』の大きな立看板3枚。歓迎メッセージの

横断幕(日高晃財務委員長作成)。カナダの国旗のファイルを持つ

たオペラ協会員と大宮小学校合唱団委員との大合唱。指揮は土田浩

さん。ひな壇が用意され、見山委員長・地村会長の歓迎挨拶。山田

成美委員の通訳で、ケイト代表のメッセージ。花束贈呈。国際的で

なかなかユニークな歓迎式典になった。

(2) 県立図書館(世界初演『赤毛のアン』記念企画展

ケイト・マグドナルド・バトラー氏歓迎セレモニー

2018年8月23日(木) 10:15~11:40

宮崎県立図書館 2階研修ホール

県立図書館主催。特別展示室で『赤毛のアン』の本や絵本の展示。

物語の舞台となったプリンス・エドワード島の紹介。ケイト代表が

制作総指揮された映画の紹介やポスター展示・サイン会等で興味深

いプログラムも用意。ここでも土田浩さん指揮で大宮小学校合唱団・

オペラ協会合唱。とても充実した歓迎セレモニーとなった。県立図書館のこのような大々的な企画展は珍しく、オペラ『赤毛のアン』公演の良い宣伝になった。しかも、新しい客層開拓にもなり、図書館に感謝したい。

## 12 第22回世界初演オペラ『赤毛のアン』公演

宮崎県オペラ協会創立45周年記念事業

2018年8月25日(土) 26日(日) 3公演

メデイキット県民文化センター 演劇ホール

○開場前の長蛇の列 ○満席

○3公演とも奇跡的に晴れ(台風シーズン中)

○開演を前に、ケイト代表のメッセージ(松本さんの通訳)

L・M・モンゴメリの相続人を代表して:

「赤毛のアン」は我々が初めて許可したオペラ作品です。祖母が存命でしたら感動の余り涙するに違いありません。娘のイライザとともに、今日ここにいることを大変嬉しく思います:

○完成度の高い舞台・キャストの熱演にケイト代表・イライザさん・観客がスタンディングオベーションで応えた。

○鳴り止まないカーテンコール(舞台上に、倉迫・佐橋・土田・地村・見山 勢揃い)

興奮はなかなか収まらなかった。

オペラ『赤毛のアン』舞台制作上演まで10年の歳月

2008年の総会でオペラ化を決めて本日の公演まで10年。紆余曲折あったが舞台制作上演が実現した。個人的には70歳から80歳の10年間。人生の玄冬期渦中。「赤毛のアン」オペラ化という大きな目標をもらい、精神的に充実した日々をおくった。

ついにオペラ『赤毛のアン』の舞台実現

多くの素晴らしい人々に助けられた

光栄であった。

## 13 オペラ『赤毛のアン』社会的評価

○宮崎日々新聞社 文化賞

○オペラ専門誌「ハンナ」創刊号に高評価の評論記事

○モンゴメリ相続会社ケイト社長と長女イライザさん来宮

○宮崎市より初めての助成金100万円

○佐藤寿美館長の英断で県立劇場演劇ホール舞台無料提供

○宮崎駅・県立図書館における初めての公式歓迎式典

○広範囲の地域からお客様

○3公演とも満席

おわりに

AGGLAより契約5年間の延長許可

宮崎県オペラ協会は、公演終了後契約の延長を願い出たケイト代表は帰国後、直ちにAGGLAと協議の結果2020年3月31日から2025年3月31日まで契約延長を許可する

花いっぱいのみやざきで これまでも

これかれも

オペラのあるまち 感動のあるまち みやざき

# オペラ 赤毛のアン L.M. Montgomery's Anne of Green Gables 全二幕

あらすじ

【第一幕】 孤児アンの物語は、意味深い。マサチューセッツ州グリーンガブリエル、マンザンの街に暮らすアンの、苦難の中成長していく姿が描かれています。孤児として成長したアンの心を通わせ、お婆さん（アンナ）と暮らすことになりました。お婆さん、お爺さん（マサ）と暮らす中で、アンの心を通わせ、お婆さん（アンナ）と暮らすことになりました。お婆さん、お爺さん（マサ）と暮らす中で、アンの心を通わせ、お婆さん（アンナ）と暮らすことになりました。



役名/キャラクター	声優	役名/キャラクター	声優	役名/キャラクター	声優
アン	大島麻理子	マサ	津島 信	マサ	津島 信
マサ	津島 信	アンナ	山崎 久美子	マサ	津島 信
アンナ	山崎 久美子	マサ	津島 信	マサ	津島 信
マサ	津島 信	アンナ	山崎 久美子	マサ	津島 信

"Anne of Green Gables" and associated words, characters, signs and logos are trademarks and/or copyrighted material of the Anne of Green Gables Licensing Authority Inc., used under license by the Plymouth Theatre Opera Association.

【Green of Green Gables (赤毛のアン)】及びその関連する言葉、キャラクター名、ロゴ及びアイコンは、Anne of Green Gables Licensing Authority Inc. の登録商標/トレードマーク/著作権であり、その使用はオペラ協会により許可されています (Anne of Green Gables, Inc. の許可によるものである)。

L.M. Montgomery is a trademark of Heirs of L.M. Montgomery, Inc.  
L.M. Montgomery © Heirs of L.M. Montgomery, Inc. の登録商標である。



チケット販売センター | 【チケット発売日: 5/22(木)】 | お問い合わせ |

- チケット: (1)山崎情報フェスティバル (2)高橋情報
- お問い合わせ: (1)高橋情報 (2)宮崎県オペラ協会
- チケット販売センター: (1)赤毛のアン(2)上流銀行委員会
- 【チケット販売日: 5/22(木)】: (1)高橋情報 (2)山崎情報 (3)高橋情報
- お問い合わせ: 0985-27-4353
- チケット販売センター: 098-5943-8394

画像：宮崎県オペラ協会提供





ケイト代表・イザベラさん歓迎式典



河野知事表敬訪問



戸敷市長表敬訪問



赤毛のアン初日公演



赤毛のアン舞台



赤毛のアン舞台



赤毛のアン舞台



赤毛のアン舞台



赤毛のアン舞台



赤毛のアン舞台



オーケストラ・アンサンブル宮崎



県立図書館講座

画像：宮崎県オペラ協会提供